

倶楽部 趣味

子どもの嬉しそうな笑顔がたまりません。
私のキャラクター作品づくりに注目して
下さい。



東亜ビジネスアソシエ
株式会社

竹内 直人 さん

名鉄鳴海駅から5分ほど歩き、東亜ビジネスアソシエ(株)の竹内直人さんと待ち合わせをしたカフェに向かいました。そこに春の晴れ間がよく似合う、爽やかな竹内さんがロードバイクで登場! さっそく趣味のお話を伺いました。

■ロードバイクがご趣味なんですか?

竹内 ロードバイクも趣味です(笑)。片道ですが東京までを2.3時間半で仲間と走ったこともありますよ。ツールド新城などのレースにも参加しています。

■東京までですか? それにレース、それは趣味の域を越えていますね…。

(ここで名刺を受取ると、名刺の裏には10を超える趣味がずらりと並んでいる。)

ロードバイクのほかにも韓国語やジョギングなど多くの趣味が並んでいますね。



竹内 そうですね…ロードバイクは、生活の中での基本移動手段として使っていますし、韓国語は20年くらい前、住み込みでカーデザイン学校で勉強している時に周りに韓国人の仲間ができて、半強制的に教えられた感じですよ(笑)。

「魔界村」というのは最高難易度と言われているゲームで、最近ハマってやっていないんですが、死ぬまでにはクリアしてみたいというちょっとした老後のお楽しみ的なものです。その他のものも常にやっているわけではないんですよ。

■では現在もっとも時間を費やしているご趣味は?

竹内 消しゴムはんこですね。趣味といいますか「はんこや兎知多家(うちたけ)」という屋号でネット販売や教室をやらせてもらっています。

■ネット販売に教室とは、これまた趣味の域を越えていますね。竹内さんは好きなことを見つけるととことん突き詰めるタイプでい

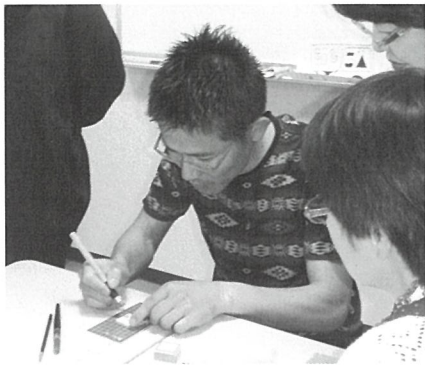
らっしゃるんですね。

竹内 いえ、消しゴムはんこは本業の方で営業ツールなどとして使っているうちに、お客様の中の一人が地域の老人ホームや公民館などを紹介してくれて広がっていききました。その後に地域情報マガジン「ちたまるスタイル」などでも紹介されたり、ラーメンスタンプラリーでお店に置くスタンプの依頼を受けたりもしています。



■もともと消しゴムはんこを始めたきっかけは何ですか?

竹内 6年ほど前に「アニメキャラのはんこを作って」という息子からのリクエストでした。出来上がりを見せた時の嬉しそうな子どもの笑顔がたまりませんでした。

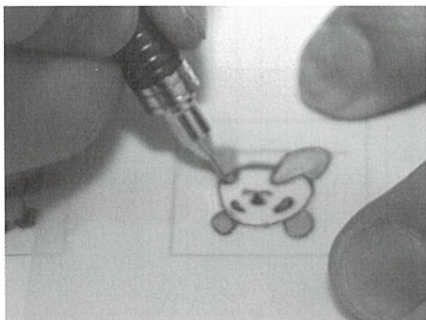


■それはどこかで習ったのですか？

竹内 いいえ、独学です。

■独学でこれほどの上達ぶりとは素晴らしいですね！ 6年以上続けている魅力は何ですか？

竹内 彫っている時に無心になれるところでしょうか、いろいろなことを忘れて集中できるところが魅力ですね。また結果がすぐに見られるので、達成感も味わえます。それに教える立場として考えると、とっつき易いという点も魅力の一つではないでしょうか。教室に来てはじめは泣いていた子も、だんだん出来てくると笑顔になり、完成してはんこを捺したときには最高の笑顔を見せてくれます。

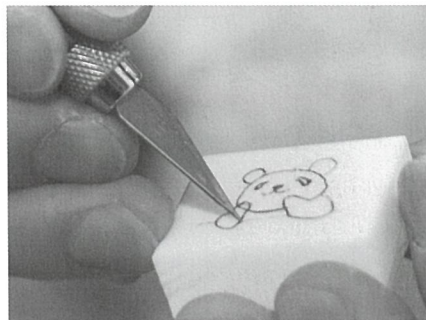


■名刺の裏に、プロモーションはんこというものもありましたが、どんなものですか？

竹内 プロモーションはんことは、自分の大好きなもの、とっても大切にしていること、それらを一目で多くの人に伝えたい！という欲求を満たすお手伝いをしたいと考えたはんこのことです。例えば愛車や趣味の紹介をはんこに取り入れて似顔絵と一緒にはんこにしています。家族写真をはんこにして年賀状に捺したり、結婚や出産のご挨拶用に写真をはんこにする方々もいらっしゃいますね。

■似顔絵のはんこって楽しそうですね！ どんどん消しゴムはんこの世界が広がっているようですが、今後の目標はありますか？

竹内 そうですね、消しゴムはんこというのは、彫る技術はもちろんですが、それ以上に図案、デザインがとても重要なんです。オリジナルティーあるデザインやキャラクターを作り、人に喜ばれる作品を作っていきたいと思っています。ただ、そのためには有名にならないと一つひとつの作品の価値



が上がらないので「はんこや兎知多家（うちたけ）」オリジナルを作り上げたいと思います。

■オリジナルキャラクターの完成を楽しみにしていますね。

竹内 では、ちょっとここで彫ってみましょうか？

…とオリジナルの前掛けをして作業を始める竹内氏。カフェのテーブルが急に作業机に早変わりし、たまたま隣席でランチをしていた少年が興味深そうに作業を見ていました。10分ほどすると可愛らしいパンダのキャラクターが彫りあがりました。見ていた少年の顔にも笑顔があふれ、竹内さんのお話が実感できました。お忙しい中お時間をいただき、楽しいお話を伺いました。ありがとうございました。